

第3回四国中央市子ども若者発達支援センター運営審議会 会議録

日時 | 令和8年2月5日(木) 13:30～

場所 | 子ども若者発達支援センター 研修室

出席者

[委員] (敬称略)

鈴木秀明、野本知津子、石村まどか、大西由美子、越智寛、合田真由美、児山初美、藤村明子、妻鳥哲朗

[事務局]

発達支援課長 石津薫

センター長 脇元子

- ▶ 管理係 河村清児、加地真大
- ▶ 総合相談係 石川考太
- ▶ 発達支援係 吉岡美緒
- ▶ 児童発達支援センター 高橋恵子
- ▶ 東部子どもホーム 後藤鉄也

欠席者

[委員] (敬称略)

なし

傍聴者

なし

0 施設見学

事務局 《障害児入所施設「太陽の家」の施設内を案内》
見学後、研修室に移動。

1 開会

課長 今回は会議の前に完成したばかりの太陽の家をご覧いただいた。私自身も4月に異動で変わってきて5月には安全祈願祭があり、そこから工事が進んでいって事故もなく無事にきれいな施設が完成し嬉しく思っている。その過程では本審議会の委員の皆さまからたくさんのご意見やご審議いただきながら、その積み重ねでここまで来れた事を思うと、委員の皆様に見ただけで感慨深く思っている。今日も審議会の中で太陽の家やパレット・プランについてご意見・ご審議いただくこととなっている。本日も忌憚のないご意見を賜りたい。

2 議事

(1) 議事 1 令和 7 年度第 2 回会議録の確認

事務局 《第 2 回審議会会議録について説明。内容省略》
委員長 事務局の説明に対し、意見や質問はないか。
委員 意見・質問なし。

(2) 議事 2 障害児入所施設「太陽の家」について

事務局 《入所者募集について説明。内容省略》
委員長 事務局の説明に対し、意見や質問はないか。
委員 短期入所についてお聞きしたい。申し込みが利用月の前々月の受付で、前月の 1 日に通知されるとの事だが、計画的な利用の場合はそれで良いが、緊急の場合はどのように申し込みや受付をしてもらえるのか。
事務局 枠が埋まっていれば難しいが、空き状況によっては緊急も随時受入れ可能と考えている。ただ緊急利用が想定される場合は先に教えていただけたらと思う。
委員 部屋が男女で分かれているが、例えば男性が 5 床埋まっていた場合、ショートは受け入れできないといったことも起こり得るのか。
事務局 なるべくそうならないように、間仕切りを動かして男女の割合を変えたり、年齢によって受け入れる部屋を考慮するなど、柔軟に対応していきたい。
委員 短期入所では通学支援や送迎はあるのか。例えば家族に何かあって通学できない場合は、一日太陽の家にいるようになるのか。
事務局 緊急で受け入れているという状況からその子の状態の事もあるし、送迎に関しては対応する職員の体制等の課題もあり、今のところ予定していない。
委員 入所支援にかかる職員の数はどうなっているか。
事務局 規程上必要な管理者や児発管、保育士等を含め最低 16 名以上必要であり、人事課に要望はしているが現時点でまだ確定はしていない。
委員 内覧会は誰でも行って良いのか。
事務局 主に支援者向けに考えているので、各事業の方にご案内を予定している。子どもが生活していく家になるので、関係のない一般の方は考えていない。
委員 入所候補者の年齢層はどうなっているか。また短期入所だけ対応する職員の配置も考えているのか。
事務局 個人情報もあるので詳細はお伝えできないが、年齢の幅はある。なお短期入所のための職員は勤務条件の難しさもあり考えていないが、状況に応じて新しく会計年度任用職員を雇うなど、対応できるようにしたい。
委員 男女で仕切っているという事だが、年齢や短期入所で利用する方など、男女の割合や年齢によって臨機応変に対応しないといけない場面も出てくると思う。その場合の保護者対応はどのように考えているか。

事務局 保護者とは日常的にモニタリング等を行い、変更があればその都度相談しながら対応していきたい。

委員 高校生くらいの大きな子と、幼児さんや低学年の小さい子では支援の仕方も違ってくと思うが、何か対策は考えているのか。

事務局 それに関しては事務局としても危惧しているところなので、状況を見ながら丁寧に対応していきたい。

委員 年末年始に短期入所をことなに繋いで対応したケースがあった。相談員としては、短期入所につながるものが想定されるご家庭については、早めにご相談しておかないといけないと感じた。また送迎に関しては社協でもファミサポを実施している。有料だがどう広げていけるか課題であり、太陽の家とも結びついていけば良いと思う。

委員長 太陽の家の入所指針を改正することについて異議ないか。

委員 異議なし。

(3) 議事 3 パレット・プランについて

事務局 《パレット・プランについて説明。内容省略》

委員長 事務局の説明に対し、意見や質問はないか。

委員 評価はどのようにするのか。

事務局 点数等ではなく、文章で施策についての評価をいただきたい。

委員 施策 1-2 の 5 歳児相談のさらなる充実について、3 歳児健診で支援や経過観察の対象とならなかった件数はどの程度あったのか。

事務局 5 歳児相談の統計を取っており、パレットに今まで相談歴がなく、5 歳児になって新しく相談に来られた方が全体の約 3 割いた。

委員 5 歳児になってからのフォローは難しいと思うが、これから小学校への入学を迎えるにあたり、どのように関わりどういった支援につながっていったのか。

事務局 家庭では問題ないが、就園して園での集団生活の中で気になる事が出てくることが多い。その場合、保護者からの相談を聞き、園などに直接訪問して集団での様子を見させていただき、支援方針を保護者と一緒に考えている。

委員 同じく 5 歳児相談に関して、アンケートを実施しているが、配布数 527 名に対して回収が 521 名と高い回収率となっている。一方で年長児になって気付いて、療育を希望する保護者もいる。療育の現場ではそういった方への対応に苦労しているという話も聞くので、現場の職員とはよく相談しながら対応していただきたい。

委員 施策 2-4 の個別支援計画に関して、各ライフステージから次のステージに繋がっていないケースがあると聞いた。特に 18 歳以上の場合が多いので就労支援等にも効果的な運用も前向きに取り組んでいくという認識で良いか。またうまく繋がるようにするには個人情報の問題もある中でどのように相談すればよいのか。

- 事務局 運用に関しては何より本人のためにつながる仕組みを考えていきたい。個別支援計画に関する各種連絡会や研修を行っており、その中で情報提供やご意見を頂けるとありがたい。
- 委員 専門職の育成について、スキルアップのために様々な研修を実施しているようだが、研修の受講には費用も掛かってくると思う。その辺りの費用対効果として何か具体例があればお伺いしたい。
- 事務局 費用対効果については何か目に見えるものや実数として検証できていない。
- 委員 なかなか数値化できるものではないと思うが、やはり専門的なことを学んできて実践で取り組まれている中で、パレットにいる各種専門職の特徴を活かして何らかの方法で、地域の支援者や当事者にフィードバックできたら良いと思う。
- もう1点、医療的ケア児への支援体制整備について、私自身、令和5年度から医療的ケア児のコーディネーター養成研修にスタッフとして携わっている。今年度は県が主催となって研修会が開催され、各市町の医療的ケア児体制整備の状況をヒアリングしていく中で、四国中央市の行政主導で動いている取組がとても良いと評価されたのでご報告させていただく。
- 委員 東部子どもホームは来月で廃止になってしまうが、放デイの事業所は足りていない。サービスを必要としている子や保護者の支援を引き続きお願いしたい。

(4) その他

①「パレット・レターNo.42」について

- 事務局 《パレット・レターNo.42 について説明。内容省略》
- 委員 意見・質問なし。

②審議会の感想について

- 委員長 最後の審議会なので、一人一言ずつお願いしたい。
- 各委員 《委員より感想。内容省略》

4 閉会

- 副委員長 この任期中に太陽の家が出来ていく過程と一緒に過ごせたのはすごく良かったと思う。今日は実際に完成した施設の中も見学できて、今まで図面で見ていたものが形となって見れてうれしく思う。四国中央市にとっては子どもの支援の拠点となる場所が出来たという安心感が持てた。四国中央市には他の市町にはない強みとして、行政と私たち相談支援専門員や民間の事業所との関係が近くて良いと県や他市の会に行くといつも言われる。これから始まる新しい太陽の家がパレットだけで運用していくのではなく、周りが支えていく事も大切だと思う。行政には民間にできない事、民間には行政にできない事がある。それぞれが知恵を出し合いながら、子どもたちや保護者の方々が幸せにこの街で暮らしていけるようになることを願っている。